

ヨシゴイの擬態(サギ科) 全長36.5センチ

国内で生息するサギ類の中では最も小さい。

一日の殆どを葭原のなかで生息するので、滅多に見ることがありません。釣り公園飯田沼では、今年もヨシゴイの繁殖が見られました。

孵化後2週間ほど経過したのでしょうか、親と同じ位まで大きくなっています。巣立った雛の数は5羽まで確認され、順調に育っていました。



頭頂にはまだ綿毛が残っているので、幼鳥と分ります。

まだ葭原から外に出ることは無く、繁みの中でじっとしたままほとんど動きません。

雛たちは葭原の枯れた茎が密生する根元近くにいることが多く、ここは体の模様と同じような環境であり、見つけることは困難です。



幼鳥3羽いますが、分かりますか。



水中に嘴を刺し込み、搦り上げたのは葭の茎でした。何回か繰り返したので、採餌の練習でしょうか。

1羽が葭原の縁に現れました。

ゆっくり左右を見渡すと、クチバシを真上に突き上げ、首をぴんと伸ばしたまま動かなくなったのです。

枯れた葎に紛れて見分けがつかなくなる、見事な擬態です。これでは猛禽類やカラスでも、見つけることは出来ないでしょう。



首を伸ばし、真っすぐに上を向いたまま動きません。周囲の風景と融け合う見事な擬態です。



頭を横に向けると、ここにいるのが分かりました。

誰に教わった訳でもないのに、いまから生き延びるための術を受け継いでいました。